

# 平成29年度事業報告

自 平成29年4月 1日  
至 平成30年3月31日

I 平成29年度は、県・市町の支援と社員各位の協力を得て、次のとおり事業を実施した。

## 1 分収造林事業（定款第4条第1項第1号、3号）

平成29年度末現在の造林面積は、19,407haとなっている。45年生以上の伐期を迎えたヒノキの主伐事業については、少花粉スギへの植え替えに係る新たな補助制度を活用して主伐事業と再造林を実施した。

また、80年生の長伐期であるスギを中心に、利用間伐事業の推進に取り組み、間伐に伴って発生する林地残材等を木質バイオマス発電燃料として活用するとともに収入の拡大に努めた。

一方、経営改善対策として、人件費や物件費の経費節減に加え、日本政策金融公庫の借換資金を活用するなど、資金調達の多様化・円滑化および支払利息の低減を図った。

### (1) 主間伐事業

補助制度を活用し主伐事業を行い、造林補助事業を活用した利用間伐事業や作業道開設を積極的に実施し、木材の有効利用に努めた。

#### ① 収入

区 分	事 業 量		販 売 額 (円)
主 間 伐 等	277.85ha	26,353m <sup>3</sup>	340,497,272
主 伐	4.18ha	2,862m <sup>3</sup>	25,186,589
利用間伐	273.67ha	23,491m <sup>3</sup>	315,310,683
立 木 補 償	10,909m <sup>2</sup>		5,239,630
計	—		345,736,902

(注) 販売額には補助金収入 (159,950,887円) を含む

#### ② 経費

区 分	内 容	事 業 費 (円)
主 間 伐 等	伐採搬出費等	248,597,165
主 伐	4.18ha (2,862m <sup>3</sup> )	12,857,986
利用間伐	273.67ha (23,491m <sup>3</sup> )	235,739,179
立 木 補 償	調査費等	199,190
計	—	248,796,355

### (2) 再造林

補助制度を活用し、スギ少花粉苗の植栽と獣害防護柵の設置を行った。

区 分	事 業 量	事 業 費 (円)
植 栽	3.34ha	2,658,960
防 護 柵 設 置	1,774m	6,670,080
計	—	9,329,040

### (3) 保育事業

森林の適正管理をめざし、林地保全に配慮しながら、将来優良な木材が収穫できるよう、造林補助金や「新ひょうごの森づくり」の「森林管理100%作戦」推進事業を活用し、保育間伐等を実施した。

区 分	事 業 量	事 業 費(円)
枝 打	5.04ha	713,632
間 伐	151.61ha	24,081,840
計	—	24,795,472

### (4) 作業道の開設等

平成29年度末現在の延長累計は509,395mとなり、造林面積1haあたりの作業道密度は26.2mとなった。

区 分	事 業 量	事 業 費(円)
作業道開設等	35,094m	81,469,161

## 2 県営分収育林事業（定款第4条第1項第2号、3号）

平成29年度末現在の分収育林面積は2,363haとなっており、多面的機能の高度発揮と、暮らしを支える付加価値の高い木材生産(100年生の森づくり)をめざし、利用間伐・保育間伐事業や作業道の開設等を計画的に実施した。

### (1) 利用間伐事業等

造林補助金を活用して保育費の低減が見込める林分を対象に利用間伐事業等を実施し、間伐材の有効利用に努めた。

#### ① 収 入

区 分	事 業 量		販 売 額(円)
利 用 間 伐 等	14.41ha	1,219m <sup>3</sup>	20,124,247

(注) 販売額には補助金収入(8,060,000円)を含む

#### ② 経 費

区 分	内 容	事 業 費(円)
利 用 間 伐 等	伐採搬出費等	14,745,555

(2) 保育事業

区 分	事業量	事業費(円)
間 伐	35.95ha	5,256,360

(3) 作業道の開設

区 分	事業量	事業費(円)
作業道開設	2,160m	4,277,880

3 県有林等の管理等受託事業 (定款第4条第1項第5号)

県民の憩いの森として利活用している県有林や県有環境林、県が分収造林契約により造成した県行造林において巡視や森林の保育等の維持管理事業を実施した。

区 分	箇所数	面積	事業費(円)
県有林・県行造林 〔巡視等財産管理〕	9	276.27ha	18,091,000
県有環境林 〔林内巡視等〕	11	1,248.64ha	21,269,766
森林保全	(5)	—	
計	20	1,524.91ha	39,360,766

(注) 箇所数の ( ) 書きは内数

#### 4 森林整備事業（定款第4条第1項第3号、6号）

兵庫県が進めている「災害に強い森づくり」の実行機関として、森林の防災機能を高めるため、県民緑税を活用した里山防災林整備、野生動物共生林整備及び緊急防災林整備（溪流対策）にかかる基本計画調査、整備造成工事を実施した。

##### （1）里山防災林整備

集落裏山で山地災害防止機能等を高める必要がある里山林において、森林整備に併せて、簡易な防災施設や歩道の整備を実施した。

区 分	箇所数	事業量	事業費(円)	備 考
基本計画調査	20	299ha	156,627,000	姫路市安富町植木野ほか
整備造成工事	20	278ha	337,912,560	朝来市佐囊ほか
計	—	—	494,539,560	

##### （2）野生動物共生林整備

農作物被害や精神的・身体的被害が生じるなど、野生動物と人とのあつれきが生じている地域において、人と野生動物との棲み分けゾーンの設置や広葉樹林の整備を実施した。

区 分	箇所数	事業量	事業費(円)	備 考
基本計画調査	16	362ha	87,632,280	赤穂郡上郡町高山ほか
整備造成工事	15	328ha	209,801,880	洲本市安乎町平安浦ほか
計	—	—	297,434,160	

##### （3）緊急防災林整備（溪流対策）

土石流や流木災害が発生する恐れのある危険溪流を対象に、溪流沿いの危険木を除去するとともに、深根性の広葉樹の植栽や簡易流木止め施設の設置を実施した。

区 分	箇所数	事業量	事業費(円)	備 考
基本計画調査	19	182ha	61,496,280	宍粟市一宮町百千家満ほか
整備造成工事	11	85ha	161,520,422	佐用町庵ほか
計	—	—	223,016,702	

## 5 緑化事業 (定款第4条第1項第4号、6号)

兵庫県が進めている「新ひょうごの森づくり」を推進するため、「森林管理100%作戦」推進事業など緑化基金を活用し、森林の整備等を支援した。

また、森林が持つ多面的機能の維持・増進等を目的として、公共施設周辺等の森林の整備や緑地維持管理業務をはじめ、森林整備計画の策定や設計積算業務を受託して実施した。

### (1) 緑化基金による森林の整備造成等事業

事業名	事業量	事業費(円)
「森林管理100%作戦」推進事業	2,596.90 ha	38,557,361
広葉樹林化促進パイロット事業	11.05 ha	7,277,770
住民参画型里山林再生事業	178.20 ha	4,964,000
企業の森づくり推進事業	1式	1,535,000
計	—	52,334,131

(注) 企業の森づくり推進事業は、収益事業等(緑化推進助成事業)で実施

### (2) 受託事業

区分		件数	事業費(円)
兵 庫 県	農 政 環 境 部	9	77,828,040
	県 土 整 備 部	4	15,830,640
	企 業 庁	1	8,957,520
市 町 等		4	60,416,280
計		18	163,032,480

6 県立三木山森林公園管理運営事業 (定款第4条第1項第10号)

兵庫県から指定管理(平成29年度～平成33年度)を受け、「森林づくり施業計画」に基づく森林整備を行うとともに、希少種を含む動植物などの生物多様性の保全・再生に向けたススキ・チガヤ草原や「チョウの森」「トンボ公園」等の環境整備を実施した。

また、「参画と協働」の理念に基づき、森林環境学習や三木山サポーター活動などに取り組むとともに、文化活動やスポーツ・レクリエーション活動を楽しむなど、人と森林とのふれあいを育み、広く県民に親しまれる公園(面積約81ha)として管理運営を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費(円)
運 営 業 務	① 入園者数: 598,599人(計画目標: 60万人) ② 施設等利用件数: 4,812件 ア 音楽ホール: 214件 イ 多目的ホール、研修室: 152件 ウ 森の風美術館: 58件 エ 会議室: 270件 オ 森のクラフト館: 3,480件 カ 茶室: 25件 キ その他: 613件 ③ 施設や活動内容等の情報提供 ア イベントチラシの作成: 75,000部(年3回) イ ホームページ、新聞、雑誌等による情報発信 ウ 展示室を利用した生物多様性の普及啓発等 ④ イベント等の企画実施 ア 普及啓発イベント(森林環境イベントほか): 43回 17,314人 イ 自主イベント(季節コンサートほか): 24回 9,302人 ⑤ 多様な森林づくりの計画実施 ア 森林管理 森林づくり: 自然環境調査 65.3ha 下刈ほか 4.18ha 樹木管理: 剪定等(中高木 50本、低木 7,320㎡) イ 生物多様性の保全・再生 「生物多様性戦略2017」に基づくチョウの森、トンボ公園整備 草原・水辺環境整備: ススキ、チガヤ草原整備、水路整備ほか 全国的な「里地モニタリング1000」調査 ウ 芝生管理: 芝刈ほか 3.1ha、目土ほか 0.70ha エ 花壇の花植替: 4回 ⑥ 森林・緑化に関する知識の普及等 ア 自然環境学習: 18小学校、延べ38回 イ 緑化相談等技術指導: 274件 ウ ポスター展示等による啓発	25,205,826
維持管理業務	公園用地の巡視管理、建物施設の維持管理 ほか	26,655,861
修 繕 費	茶室床改修・井水加圧給水ユニット修繕 ほか	6,680,640
人 件 費	職員、嘱託員に係る給与等	65,190,726
計		123,733,053

(注) 自主イベント等は、収益事業等(施設利用者等への利便提供事業)で実施

## 7 農地集積・集約化推進事業（定款第4条第1項第7号）

### （1）農地中間管理事業

平成26年3月1日に施行された「農地中間管理事業の推進に関する法律（平成25年法律第101号）」に基づき、兵庫県知事から農地中間管理機構の指定を受け、農地中間管理事業を実施した。

区 分		戸数・経営体数	事業量	事業費(円)
農地中間管理事業 による貸借	借 受	1,750 戸	514 ha	125,540,255
	貸 付	180 経営体	449 ha	

※平成30年3月末時点の貸付累計3,408ha

[推進活動の実施状況]

- ① 推進会議及び県域・地域推進協議会の開催 12回
- ② 評価委員会の開催 1回
- ③ 借受希望者の募集 738経営体
- ④ 市町・集落等への説明会の開催  
農業振興地域を有する全ての市町・集落 1,000回
- ⑤ 新聞広告掲載  
神戸新聞朝刊（全県版） 6回
- ⑥ 推進シンポジウムの開催  
平成29年8月3日 三木山森林公園音楽ホール 354名参加

### （2）農地中間管理機構の事業の特例（売買事業）等

規模縮小する農業者から農地を買入れ、規模拡大を目指す認定農業者等に売渡しを行ったほか、旧農地保有合理化事業による既契約分の貸借事業を実施した。

また、農作業受託で規模拡大を目指す認定農業者等に資金の支援を継続している。

事業内容		件数	事業量(ha)	事業費(円)
農地中間管理機構の 事業の特例 (売買事業)	買 入	5	1.8	8,456,750
	売 渡	5	1.8	8,456,750
農作業受託促進事業	継 続	3	13.8	—
貸借事業（旧農地保有合理化事業）		2	19.6	2,008,319

## 8 農業後継者育成事業（定款第4条第1項第8号）

### (1) 農業後継者育成事業積立資産活用事業

積立資産を活用し地域協議会等と連携しながら、青年農業士や地域農業青年組織等の活動を支援し、農業後継者の育成・資質向上を図った。また、将来の農業後継者となりうる農業高校生・農業大学生を対象に就農への意識啓発を行うとともに、先進的・近代的な農業を体験させる海外研修を実施した。

区 分	事 業 内 容	事業費(円)
地域協議会事業	地域事情に応じた若手農業後継者育成対策を展開するため、「技術の向上」、「啓発」、「青年農業者育成」、「交流」に関する地域活動を地域協議会に委託して実施 ①地域協議会数：11協議会 ②委託した主な事業 新技術修得、シンポジウム、研修会、先進地視察、青年農業者グループ活動、就農希望者セミナー等	13,857,389
若手農業者総合対策事業	若手農業後継者の活動を促進し、青年農業者の育成と地域農業の活性化を図るとともに、新規就農者の確保・育成に向けた環境を醸成するため、団体の活動を支援	
青年農業士会活動	青年農業士自らが資質向上を図るため先進地視察研修の開催や、管理栄養士等をめざす学生を対象として食育講座等(4回開催)を開催 (青年農業士会員 平成30年3月末現在：67名)	
農業青年クラブ等活動	農業青年クラブ員が実施する先進地視察研修やJAの青壮年部が企画する農作業体験や消費者との交流会等を実施 (農業青年クラブ等：17団体)	
若手地域農業リーダー育成研修事業 (海外派遣)	農業高校生・農業大学校生及び若手農業者を海外に派遣し、各種の研修を行いながら、国際的な視野・農業知識等を修得させ、将来の地域農業リーダーを育成 派遣先：ブラジル連邦共和国 期 間：平成29年11月4日～17日の14日間 参加人数：研修生11名及び引率指導者2名 事前研修：3回(平成29年8月、9月、10月) 結団式、反省会、解団式：各1回	
高校生就農講座開催事業	高校生等に対し、地域の青年農業士等による就農に向けた講演、農場視察等を行い、将来の就農に向けた意識啓発を実施 (助成農業関係高校6校、448名参加)	
農業後継者等海外研修支援事業	農業後継者の経営の高度化・多角化を目的に、海外輸出や6次産業化など新たなビジネス展開のため、欧州、アジア等での市場調査等を支援 支援者：2名 研修先：イタリア、ベトナム	
青年農業士認定事業	地域における農業後継者自ら意欲と誇りを高揚するため、青年農業士を認定(認定者数：15名)	
農業後継者育成事業推進委員会の開催	農業後継者育成事業の運営、事業推進等について協議、意見交換を実施(委員：22名) 開催日：平成30年3月13日	



(2) 就農促進サポート事業（兵庫県青年農業者等育成センター事業）

農業経営基盤強化促進法に基づく「青年農業者等育成センター」として、就農相談、青年農業者育成指導業務を実施した。

区 分	事 業 内 容	事業費(円)
就 農 促 進	① 就農相談（会場：神戸国際会館） 就農希望者向けセミナー・相談会 平成29年8月6日 12名（楽農センターブース相談者） 平成30年2月18日 13名（ " " ） ② 就農促進担当者会議 平成30年2月27日	827,000
青 年 農 業 者 育 成 指 導	① 農業高校生等のつどいの開催等 平成29年11月16日 135名 就農等に係る意向調査(回答：135名) ② 農業青年活動促進 ア 県農業青年技術交換大会兼青年農業者会議 平成29年11月28～29日（88名） イ 近畿地域農業青年会議 平成30年1月17日（6名） ウ 全国青年農業者会議 平成30年3月8日～9日（5名）	

9 「楽農生活」推進事業（定款第4条第1項第9号、11号）

(1) 兵庫楽農生活センター管理運営事業

ア 施設の管理運営、広報等

兵庫県から指定管理を受け、県民の誰もが「農」に関する様々な体験や学習、実践を通じて、自然と親しみ、自然と共に生きることを実感しながら、「食」と「農」を楽しむことができる「楽農生活」の実現に資するため、各種事業を進めている。プロポーザルにより運営参画している民間事業者や地元農業者グループ等と緊密に連携・協働し、年間を通じて質の高い多彩な体験事業を実施し、賑わいがあり、何度も訪れたくなるような感動や魅力を備えた施設（面積約14ha）として管理運営業務を実施した。

区 分	事 業 内 容	事業費(円)
管理運営業務	① 施設の利用者数：154,645人 ② 主要イベントの企画・実施：6回 計16,167人 ア「春野菜フェア」 (6,411人) 平成29年4月29日(土祝)～5月7日(日)開催 イ「夏野菜フェア」 (1,897人) 平成29年7月15日(土)～7月17日(月祝)開催 ウ「秋野菜フェア」 (2,405人) 平成29年10月7日(土)～10月9日(月祝)開催 エ 秋の感謝祭 (3,300人) 平成29年11月13日(月)開催 オ「来園者200万人達成記念イベント」 (706人) 平成29年11月23日(木祝)開催 カ「新春フェア」 (1,448人) 平成30年1月6日(土)～1月8日(月祝)開催 ③ 民間参画事業者による体験イベント等に関する広報、募集、受付、調整 ア【株式会社トーホー】 食体験(レストラン)：利用者74,140人 野菜栽培体験：76回(2,001人)開催 きのこ栽培体験：79回(1,720人)開催 里山づくり体験：53回(1,807人)開催 イ【兵庫六甲農業協同組合】 農産物加工体験：68回(1,047人)開催 農産物直売：利用者29,419人 ウ【老ノ口受託グループ】 果樹栽培体験：26回(1,534人)開催 エ【兵庫農機販売株式会社】 農機具展示、農機レンタル(18台) ④ 研修室利用件数：438回 (研修室A 158回、研修室B 180回、研修室C 100回) ⑤ ビニールハウス張替、空調設備補修、雨漏補修、駐車場路面補修等、施設の充実及び維持管理	36,840,410
広報・普及啓発業務	センター施設や事業内容等の広報、「楽農生活」の普及啓発等 ① ホームページやイベントチラシ等による情報発信 ② 楽農生活研修の実施や小学校環境体験学習の受入 ③ 市民農園の利用案内などの情報提供等	

## イ 楽農学校等事業

「楽農生活」の実現に向けて、県民誰もが気軽に「農」の大切さを学び、体験し、実践できるよう、人材の育成や学習を支援する「楽農学校事業」や農作物栽培、加工、食などの体験・交流を支援する「楽農交流事業」や中高年齢者等の新規就農を支援する「新規就農駅前講座推進事業」、プランターを使った野菜等の栽培を学ぶ「ベランダ野菜等栽培講座推進事業」等を実施した。

区 分		事 業 内 容	事業費(円)
楽 農 学 校 事 業	生きがい農業 コース	市民農園などで生きがいとして農業を楽しみたい人を対象に基礎的な農業知識・技術を習得する研修 研修人数：105名(上期57名、下期48名) 研修期間：上期：4月～8月、下期：9月～3月	27,816,500
	就農コース	本格的な農業経営を目指す人を対象に、総合的な農業知識・技術を習得する研修 研修人数：39名(13期19名、14期20名) 研修期間：8月から1年間	
	有機農業塾	有機農業の基礎や実践方法を学びたい人を対象に、学識者や有機農業実践者による座学と専用ほ場での栽培実習等の研修 研修人数：54名 研修期間：4月～1月	
	米食にかかる 普及活動	かまどご飯やポン菓子などの啓発活動及び学生を対象とした稲作体験	
楽 農 交 流 事 業	親子農業体験 教室	「農」への理解促進と自然とのふれあいを図るため、親子(家族)を対象に、「コウノトリ育む農法」による田植えから稲刈りまでの稲作栽培や兵庫特産品の黒大豆の栽培を体験する教室 参加者数：141家族(564名)	
新規就農駅前講座 推進事業		農業に関心のあるシニア世代のサラリーマン等を対象に、農業の基礎的知識を習得する講座 平日夜間コース：12回(6回×2期 三宮駅前) 休日昼間コース：12回(6回×2期 元町駅前) 内容：講義と兵庫楽農生活センターの視察 受講者数：78名	
ベランダ野菜等 栽培講座推進事業		プランターを使った野菜等の栽培を学びたい人を対象にした栽培講座 講義：4回 受講者数：11名	
新規就農者 確保事業		楽農学校事業の就農コース研修生のうち、就農前の研修期間の所得を確保する「農業次世代人材投資資金(準備型)」の希望者に対して、給付申請等を支援 給付申請者数：11名	

## ウ 都市農村等交流事業

### ① ふるさとむら活動支援事業

都市住民に対して農村ボランティアの募集・登録を行うとともに、ボランティア活動の受け入れを希望する地区等（「ふるさと村」）に対し、ニーズに沿った人材を提供できるよう活動情報の収集・提供を行うなど、双方の活動を支援した。

区 分	事 業 内 容	事業費(円)
農村ボランティアの募集・登録	ホームページやチラシ、広報誌、主要イベント等を活用した情報発信 平成29年度新規登録者数：58名	1,960,000

### ② 都市農村交流バス運行支援事業

県内の各種団体等が体験、研修活動を実施するにあたり、グリーン・ツーリズムバス、消費地探訪バス、わが町PRバス、農山村応援活動バスを利用する場合、バスの借上げ経費の一部を助成することにより、都市と農山漁村の交流を促進した。

区 分	事 業 内 容	事業費(円)
グリーン・ツーリズムバス	田植え、間伐、地引き網等の農林漁業体験や研修を行うバス旅行 316台(うち1泊2日33台)	12,539,000
消費地探訪バス	農林水産物の流通施設や加工施設への調査研修、各種行事への出展やフォーラム参加等のためのバス旅行 26台(うち1泊2日 0台)	
わが町PRバス	産地PRや農林漁業体験、援農ボランティアに一般参加者を募集して実施する体験バス旅行 30台(うち1泊2日 0台)	
農山村応援活動バス	農村ボランティア活動を行う際にふるさとむら又はボランティアグループ等が運行するバス旅行 16台(うち1泊2日 1台)	
計	388台(うち1泊2日34台)	

## (2) 市民農園の推進

「楽農生活」を普及・推進するため、市町や地元団体等と連携してひょうご市民農園(公社型)を2カ所整備するとともに、市民農園の利用促進活動等を実施した。

区 分	事 業 内 容	事業費(円)
ひょうご市民農園(公社型)	① 整備2カ所(明石市、三木市) ② 啓発・利用促進等	5,649,731

## 10 次世代施設園芸モデル団地整備等事業（定款第4条第1項第11号）

国及び兵庫県の補助金を活用して加西市に整備した「ひょうご次世代施設園芸モデル団地」について、兵庫県次世代施設園芸モデル団地運営協議会の方針のもと、兵庫県・地元市等と協力して、その施設を活用して事業を行う（株）兵庫ネクストファームに、施設を賃貸する事業を実施した。

区 分	事 業 内 容	事業費(円)
賃 貸 事 業	施設等の貸付賃料の収受、土地使用料等の支払	12,654,600

(注) 収益事業等(次世代施設園芸モデル団地整備等事業)で実施

### [参考]

#### 施設の概要

区 分	事 業 内 容
箇 所	加西市鶉野町・野条町
規 模	敷地面積 約8ha
施 設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェンロー型温室（約0.89ha×4棟／計3.6ha）</li> <li>・統合環境制御設備</li> <li>・加温施設（木質バイオマスボイラー等）</li> <li>・集出荷施設・倉庫 等</li> </ul>
完 成	平成27年7月31日